



東北公益文科大学  
Tohoku University of  
Community Service and Science

# 専門演習選択ガイドンス

---

2 0 1 7

# 専門演習選択に伴う留意事項について【重要】

## 1 専門演習の内容（必修科目）

専門演習Ⅰ：各自が関心を抱き、設定する研究テーマをもとに、指導教員を選択・決定する。年間を通して現地調査や専門文献の探索・論読による課題の発見や分析、さらに口頭発表、レポート作成などを織り交ぜて専門知識を深めつつ、自らの卒業論文のテーマを確定する。

専門演習Ⅱ：専門演習Ⅰに引き続き、確定した卒業論文のテーマを中心に、個人指導・グループ指導をうけ、あわせて口頭発表やレポート作成を繰り返して卒業論文を完成する。

## 2 専門演習選択の考え方、進め方

- ① 専門演習は必修科目で、通年の科目となっています。専門演習Ⅰは3年次、専門演習Ⅱは4年次に履修することになります。専門演習Ⅰを修得しないとⅡを履修することはできません。3年次に専門演習Ⅰを修得しないと4年間で卒業できなくなります。
- ② 専門演習は1つだけ選択し、2年間継続して同じ専門演習（同一の教員の演習）を履修することを原則とします。
- ③ 専門演習の選択にあたっては、地域経営系の学生は、所属する系（コース横断可）または系外から選択する。交流文化系の学生は、所属する系（コース横断可）から選択し、系外は選択できません。
- ④ 各専門演習のシラバスを必ず良く読んでから選択にのぞんでください。
- ⑤ 各専門演習を担当する教員ごとに定員を設定しています。したがって、定員を超えて希望がある場合は、選考のうえ履修者を決定します。選考方法は、各教員によって異なります。詳しくは、シラバスを参照してください。また、希望者が定員以内の場合でも、希望者の興味・関心を確認するため、**必ず希望する教員と面談**を行ってください。
- ⑥ 専門演習選択の参考とするため、次のとおり**公開授業**を実施します。興味や関心のある専門演習を積極的に見学するようにしてください。また、**オフィスアワーなどを活用して、自分が卒業論文のテーマとしたいことと指導する教員の研究内容、専門演習の進め方などを担当教員と十分に相談してください。**その際、1人の教員だけではなく、広く様々な教員と相談し、話を聞いてみてください。

《専門演習公開授業》

実施期間： 11月17日（木）～12月1日（木）の各授業時間

時間割等： 資料5ページ参照

実施内容： 3年生又は4年生の実際の授業を見学できます。

- ⑦ 以上①～⑥を踏まえて、期日までに第1次希望を提出します。第1次希望の専門演習が選外となった場合は、定員に満たない専門演習のなかから、再度定められた期日まで第2次希望を提出します。以下、専門演習が決まるまで続けます。（各専門演習の定員状況は掲示によりお知らせします。）

- ⑧ 実際に専門演習の履修登録をする時期は来年4月になりますが、来年4月時点での専門演習の変更は認めません。

### 3 専門演習の履修制限

2年次終了時点で、3年次進級要件を満たしていない場合は、「専門演習Ⅰ」を履修できません。この場合、希望した専門演習は無効となり、次年度に改めて希望を提出して決定します。

### 4 専門演習の変更

決定後の専門演習の変更は、原則として認めません。ただし、特段の事情がある場合には、担当教員、または教育推進委員に相談してください。

### 5 休学者、編入生の対応

休学者および3年次への編入生の専門演習選択は、その状況を踏まえて、別途選考等を行い、決定する予定です。

### 6 長期留学者の対応

3年次以降、海外の大学等へ6ヵ月または1年の留学を行う者は、「専門演習(留学)」を履修することにより、4年間での卒業が可能になります。

専門演習(留学)Ⅰa、Ⅰb、Ⅰc、Ⅱのうち、専門演習(留学)Ⅱは必修です。専門演習(留学)Ⅰa、Ⅰb、Ⅰcは選択必修とし、留学期間に応じて1科目2単位、2科目4単位を修得します。専門演習の単位(合計8単位)の一部を修得しないことにより卒業に不足する単位については、専門科目または発展教育科目から修得します。

詳しくは「履修ガイド」17ページを確認してください。

### 7 今後のスケジュール

- ① 別紙「専門演習選択 志望理由書」に希望理由を記載して提出してください。(学籍番号、氏名、連絡先なども忘れずに記載してください。)

**第1次希望提出期限 平成28年12月2日(金)17:00 厳守**

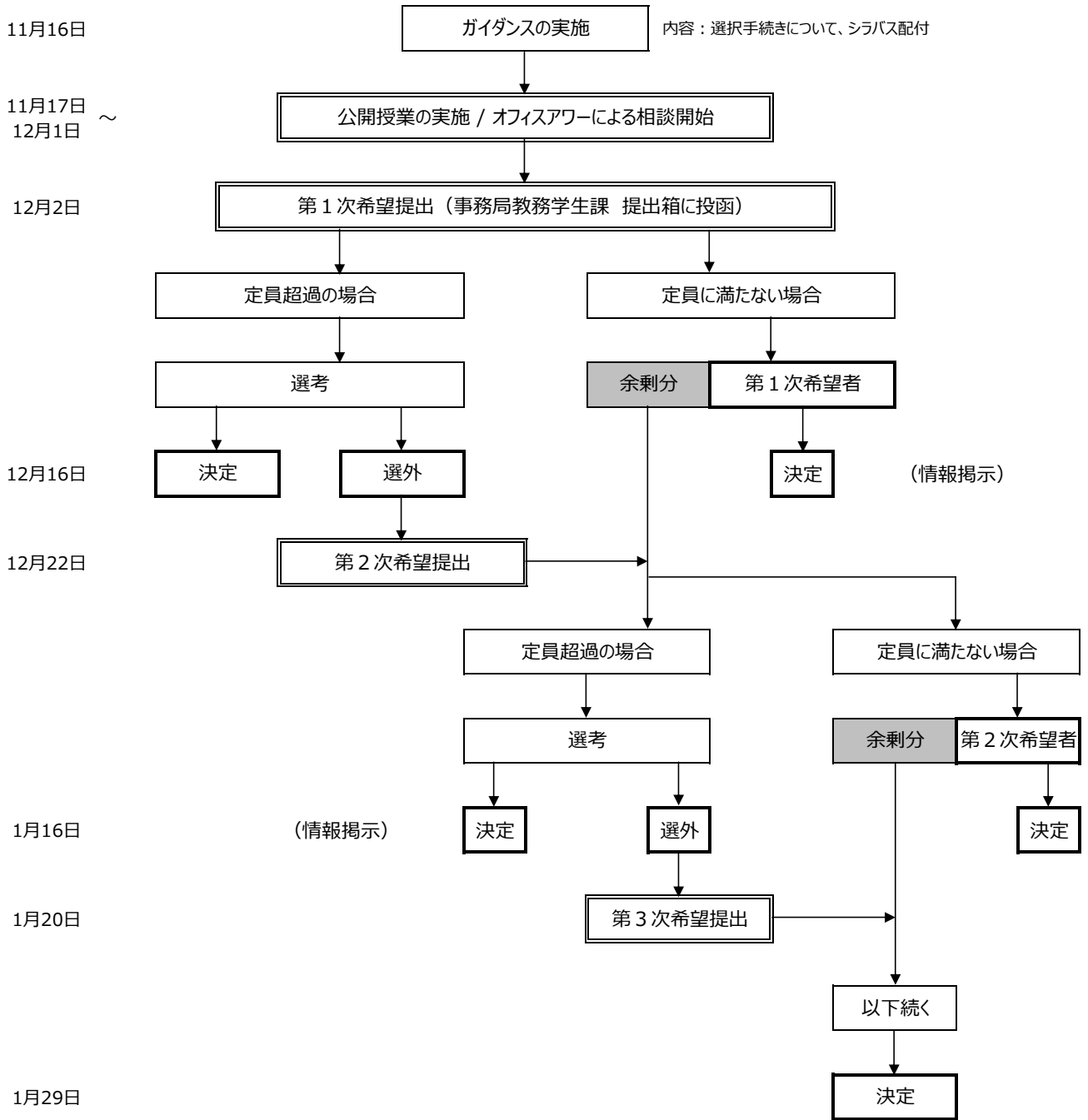
期限まで提出しなかった場合は、第1次希望から外れますので、注意してください。

- ② 今後のスケジュールは、次ページ「平成29年度専門演習選択フローチャート」により実施しますが、日程が変更になる場合があります。その際は掲示によりお知らせしますので、情報を良く確認するようにしてください。

### 8 教育推進委員会(教員)

阿部 公一 教授(委員長)、竹原 孝太 准教授(副委員長)、松田 憲 教授、  
神田 直弥 教授、三木 潤一 准教授、松山 薫 准教授、白旗 希実子 講師

# 平成29年度専門演習選択フローチャート



※ 1 日程については、集計状況等により若干変更になる場合があります

|          |      |         |         |         |         |
|----------|------|---------|---------|---------|---------|
| 地域に関する学習 | 地域区分 | 学びの基本学習 | 地域の背景学習 | 地域課題の認識 | 地域課題の解決 |
|          | 庄内   | ○       |         |         |         |
|          | 他地域  |         |         |         |         |

《地域経営系 経営コース・情報特別選抜（系外）》

|                           |  |        |    |
|---------------------------|--|--------|----|
| 教員氏名                      | 神田 直弥  | 最大受入人数 | 8名 |
| テーマ（予定）                   | <p>安全人間工学<br/>         どのような職場でも事故や労働災害、製品の不具合等を経験する可能性があるが、これらの原因の多数を占めるのは人間の判断の誤りや見間違い、不適切な実行方法等のいわゆるヒューマンエラーである。<br/>         安全人間工学は、人間特性を踏まえたモノづくりや仕組みづくりを通してヒューマンエラーを防ぎ、安全性を向上させる実践的学問である。<br/>         ヒューマンエラーは事故の原因ではなく、作業現場に潜むリスクが適切に管理されていなかった結果として発生した症状であると考え、エラーをした個人を処罰するのではなく、個人を取り巻く環境を改善することでエラーや事故の再発防止を目指す点に特徴がある。<br/>         ゼミでは、ヒューマンエラーの発生メカニズムを理解し、失敗を分析して対策を策定する方法について理解を深めるため、関連書籍の輪読や事故分析の練習、人間特性を理解するための調査、実験等を行う。現在は道路交通を主要な分野として取り扱っているが、対象とする分野は各自の興味関心に基づいて決めることができる。</p> |        |    |
| この専門演習のねらい・到達目標           | <p>実験。調査実習を通して、資料収集、実験計画、データ収集、論文作成などの基本的な知識を身につけるとともに、心理学や人間工学に基づく安全デザインの考え方を修得する。</p>  |        |    |
| この専門演習の運営方法               | <p>3年春学期：ヒューマンエラーに関連する書籍の輪読、ディスカッションと簡単な実験（実験方法の習得が目的）<br/>         3年秋学期：自主研究（春学期の内容を踏まえつつ自由にテーマを設定）<br/>         卒業論文テーマの選定（自主研究を拡張する）<br/>         他に、他大学との合同夏合宿（8月下旬長野）、情報系合同中間発表会（7月、12月）、情報系合同成果発表会（1月）を実施予定。各発表では専門演習Ⅰ、Ⅱの受講者全員が発表を行う。なお、3年生の春学期の時点で各自のテーマが明確な場合は、最初から各自のテーマについて調査や実験を進める可能性あり。</p>  |        |    |
| 選考方法                      | <p>志望理由書重視。必要に応じて面接を行う。<br/>         志望理由書には志望動機と取り組みたいテーマを必ず記載すること。</p>   |        |    |
| 成績評価の方法と基準                | <p>課題への取り組み状況、授業への参加状況、発表会への参加状況、レポートの提出状況により評価する。</p>   |        |    |
| 関連科目                      | <p>心理学、統計学 a、b</p>   |        |    |
| その他<br>（大学院との関係や履修上の注意点等） | <p>注意点：授業時間以外にデータ処理や実験などの作業を行うことがある。卒業論文は実験または調査、事故分析のいずれかを必須とする。2年生の春休みに安全人間工学関連の書籍を読み、レポートを作成する課題の実施を求める。<br/>         大学院：室内実験を行う場所が限られるため、精緻なデータを収集することが困難である。それゆえ大学院に進学する際は、進学後も継続可能なテーマを設定することになる。進学を希望する場合は他大学の大学院も紹介するので選択肢に入れると良い。</p>  |        |    |

| 関する学習<br>地域に | 地域区分 | 学びの<br>基本学習 | 地域の<br>背景学習 | 地域課題<br>の認識 | 地域課題<br>の解決 |
|--------------|------|-------------|-------------|-------------|-------------|
|              | 庄内   | ○           | ○           | ○           | ○           |
|              | 他地域  |             | ○           | ○           | ○           |

《地域経営系 経営コース・エネルギー特別専攻（系外）》

|                               |  |        |    |
|-------------------------------|--|--------|----|
| 教員氏名                          | 古山 隆   | 最大受入人数 | 8名 |
| テーマ（予定）                       | 【メインテーマ】<br>「エネルギー、リサイクル、スポーツで地域経営」  |        |    |
| この専門演習の<br>ねらい・到達目標           | 地域に合った活性化のアプローチを、再生可能エネルギーの利用、リサイクルビジネスの創出、スポーツ文化の普及、の3つの面から見出すことを目的とします。  |        |    |
| この専門演習の<br>運営方法               | 【専門演習Ⅰ】<br>再生可能エネルギーの賦存量調査、採算性のある廃棄物からの有価物回収プロセスの構築、スポーツイベントの企画運営に関連する技術や知識を学習します。<br><br>【専門演習Ⅱ】<br>卒業論文のテーマ別に行った実験、およびフィールド調査や文献調査などの結果について発表を行います。  |        |    |
| 選考方法                          | 以下の①及び②の条件を満たしていること。 <u>なお、面談していない場合は受け入れを行いません。</u><br><br>①以下の科目を1科目以上履修している。<br>・エネルギーと社会<br>・再生可能エネルギー論 a、b<br>・エネルギー政策論<br>・エネルギー経済論<br>・山形地域論<br>・健康科学<br>・プロジェクト型応用演習「酒田地区におけるサッカーの指導環境の改善に関するプロジェクト」<br><br>②面談を受けている。<br>ゼミ配属を希望する人は以前にメール連絡をしてください（E-mail：furyama@koeki-u.ac.jp）。日時を調整して面談を行います。 |        |    |
| 成績評価の<br>方法と基準                | ゼミでの発表やレポートをもとに総合的に成績を評価します。   |        |    |
| 関連科目                          | 物理学、化学、基礎簿記Ⅰ・Ⅱ、会計学   |        |    |
| その他<br>（大学院との関係や<br>履修上の注意点等） | フィールド調査や実験のサンプリングなどは夏季休業や春季休業中に行うことがあります。  |        |    |

|              |      |             |             |             |             |
|--------------|------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 関する学習<br>地域に | 地域区分 | 学びの<br>基本学習 | 地域の<br>背景学習 | 地域課題<br>の認識 | 地域課題<br>の解決 |
|              | 庄内   | ○           | ○           |             | ○           |
|              | 他地域  |             | ○           |             | ○           |

《地域経営系 経営コース》

|                               |  |        |     |
|-------------------------------|--|--------|-----|
| 教員氏名                          | 三 木 潤 一  | 最大受入人数 | 8 名 |
| テーマ（予定）                       | <p>公共部門と民間部門の役割分担<br/>企業が活動する場である「市場」や「ゲームの状況」について分析し、公民連携や民間活力導入をはじめ今日的な政治経済問題について考える。</p>  |        |     |
| この専門演習の<br>ねらい・到達目標           | <p>なぜ、警察や消防は株式会社で経営できないのか？なぜ、道路建設は政府の仕事なのか？なぜ、鉄道やバスには公営と民営があるのか？なぜ、水道は有料なのに家庭ごみの処理は無料なのか？本専門演習では、このような簡単には答えられない公共部門と民間部門の役割分担の問題に関する検討を行い、以下の3点を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済学の重要な概念である資源配分の「効率性」と所得分配の「公平性」を理解できるようになる。</li> <li>2. 「市場の失敗」や市場で決定される所得分配、またはゲームの状況に対する政府の適切な介入について理解できるようになる。</li> <li>3. 行財政改革などの今日的な政治経済問題を、自らの問題として考えることができるようになる。</li> </ol> |        |     |
| この専門演習の<br>運営方法               | <p>上記到達目標を達成するためには、検討課題に対し能動的に取り組む必要がある。そのための舞台として、学外ゼミ等と合同でディベートや発表を行う機会を設定する。ディスカッションする場を多くもつことで、証拠に基づき考える力の養成を図る。</p> <p>具体的には、1)基本的な概念・理論の把握、2)ディベートや発表するテーマに応じた文献・データの収集およびヒアリングの実施、3)文献・データ・ヒアリングに基づく分析、4)レジュメ・スライドの作成、5)本番でのディスカッションといったプロセスを通して、自分の中で、また仲間や学外ゼミと議論する中で考え、最終的にレポートを仕上げていく。統計資料については、パソコン実習を通して分析の方法を学ぶ。</p>   |        |     |
| 選考方法                          | <p>最大受入人数を超えた場合は、個別面接および経済学関連科目の履修状況等により選考する。履修希望者は、ミスマッチを防ぐため、必ず本専門演習担当者とメール(j_miki@koeki-u.ac.jp)等で予約を取り、事前に面談を受けること。</p>  |        |     |
| 成績評価の<br>方法と基準                | <p>レポート(前期末と後期末を予定)と授業時間の平常点で評価する。評価割合は、前者が40%、後者が60%とする。なお、平常点の評価は、授業への積極的参加・ディベートや発表等を総合的に勘案して行う。</p>  |        |     |
| 関連科目                          | <p>三木担当科目：「経済学」「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「経済学特論 a」「経済学特論 b」「地方財政論」</p> <p>その他科目：数学・統計学・情報処理に係る科目</p>   |        |     |
| その他<br>(大学院との関係や<br>履修上の注意点等) | <p>特にディベートや発表の準備、レポート作成では、授業時間外の努力を求める。また、数学・統計学・情報処理の知識は特に前提としないが、支援するので本専門演習と並行して意欲的に取り組む姿勢を期待する。</p>  |        |     |

|              |      |             |             |             |             |
|--------------|------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 関する学習<br>地域に | 地域区分 | 学びの<br>基本学習 | 地域の<br>背景学習 | 地域課題<br>の認識 | 地域課題<br>の解決 |
|              | 庄内   |             |             |             |             |
|              | 他地域  |             |             |             |             |

《地域経営系 経営コース》

|                               |  |        |    |
|-------------------------------|--|--------|----|
| 教員氏名                          | 松尾 慎太郎   | 最大受入人数 | 8名 |
| テーマ（予定）                       | ビジネス会計の研究<br>－財務諸表から企業の実態を読み解く－  |        |    |
| この専門演習の<br>ねらい・到達目標           | この専門演習の到達目標は、財務諸表の仕組みを理解し、会計情報を分析して企業の実態を判断できるようになることです。そのために、会計情報の体系・構造および基礎となる基準を学び、情報の読み方である財務諸表分析に関する手法や解釈方法を検討したうえで、会計情報を通じた多様な企業分析観を養います。  |        |    |
| この専門演習の<br>運営方法               | <p>【3年次】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>春学期は、ボードゲームの「モノポリー」を使って、財務諸表の作成について学習します。</li> <li>秋学期は、テキストに基づいて財務会計の基本的な内容を確認するとともに、財務諸表分析に関する手法や解釈方法について学習します。</li> </ul> <p>【4年次】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各自で設定したテーマについて卒業論文を作成します。基本的には個別指導になりますが、定期的に進捗状況を授業内で報告してもらい、議論します。</li> </ul> |        |    |
| 選考方法                          | 希望人数が定員を超える場合は、面接により選考を行います。<br>ゼミ希望者は第1次希望を提出する前に、必ずメール等で予約を取り、面談を受けてください。面談の予約、事前の相談については、matsuo@koeki-u.ac.jp までご連絡ください。  |        |    |
| 成績評価の<br>方法と基準                | 意欲のあるゼミ生による自主運営を尊重するので、その前提として、出席と討論等への参加・発言が必須です。<br>3年次は出席状況、発表内容、レポート等の提出物をもとに評価を行います。<br>4年次は卒業論文をもとに評価を行います。  |        |    |
| 関連科目                          | 基礎簿記Ⅰ・Ⅱ<br>会計学<br>企業財務分析   |        |    |
| その他<br>(大学院との関係や<br>履修上の注意点等) |  |        |    |



| 関する学習<br>地域に | 地域区分 | 学びの<br>基本学習 | 地域の<br>背景学習 | 地域課題<br>の認識 | 地域課題<br>の解決 |
|--------------|------|-------------|-------------|-------------|-------------|
|              | 庄内   | ○           | ○           | ○           | ○           |
|              | 他地域  |             | ○           | ○           | ○           |

《地域経営系 政策コース》

|                           |   |        |    |
|---------------------------|---|--------|----|
| 教員氏名                      | 阿部 公一   | 最大受入人数 | 8名 |
| テーマ（予定）                   | <p><b>【共通テーマ】若者に対する公的年金の啓発と情報発信</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 若者への公的年金の啓発と情報発信は、将来における国民年金保険料の未納を予防するための重要な政策的手法です。</li> <li>○ 公益大生等を対象に、国民年金への加入行動等に関するアンケート調査の実施と取りまとめを全員参加で行うことを予定しています。</li> <li>○ 国民年金の加入手続き等に関して、自分事化の芽生えを育むような啓発的な動画教材を制作してみたいと考えています。</li> </ul> <p><b>【各自の個別テーマ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 卒業論文のテーマに関しては、各自の興味に応じて、社会保障・公的年金の分野から選定してください(同上分野における地域を事例にしたテーマも歓迎いたします)。</li> </ul> |        |    |
| この専門演習のねらい・到達目標           | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ アンケート調査研究や啓発的な動画教材等の成果物に関しては、積極的に情報発信していきます。</li> <li>○ 大学生を対象にしたユース年金学会での発表を目標としています。</li> <li>○ 共同作業により、職業的社会人に必要なチーム力等のスキルを高めます。</li> <li>○ 最終的には、各自の卒業論文を完成させます。</li> </ul>  |        |    |
| この専門演習の運営方法               | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全員参加型の方式で進めます。</li> <li>○ アクティブ・ラーニング方式を取り入れて進めます。</li> </ul>  |        |    |
| 選考方法                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ミスマッチを防ぐため、教務学生課に「専門演習選択志望理由書」を提出する前に、個別面談を受けてください。また、「相談」でもかまいませんので、気楽にご連絡ください。</li> <li>○ 個別面談により内々定を得た方は、期日までに「専門演習選択志望理由書」を提出してください。</li> </ul>  |        |    |
| 成績評価の方法と基準                | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 毎回のゼミへの積極的な参加の度合いを重視して評価します。</li> </ul>  |        |    |
| 関連科目                      | 社会保障論Ⅰ・Ⅱ、公的年金論、プロジェクト型応用演習(阿部担当)  |        |    |
| その他<br>(大学院との関係や履修上の注意点等) | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「相談」や「個別面談」を希望する方は、以下の方法等でご連絡ください(5限終了以降の時間帯だと、比較的研究室にいます)。</li> <li>○ メールアドレスは、koichi@koeki-u.ac.jp です。</li> <li>○ 共同研究室 h5、研究室直通電話 0234-41-1290 です。</li> <li>○ オフィスアワーの時間帯は、月曜 5 限です。</li> <li>○ なかなか会えない場合は、個別研究室のドアのマグネットポケットに、連絡先等の情報を記入したメモを残しておいてください。</li> </ul>   |        |    |

|              |      |             |             |             |             |
|--------------|------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 関する学習<br>地域に | 地域区分 | 学びの<br>基本学習 | 地域の<br>背景学習 | 地域課題<br>の認識 | 地域課題<br>の解決 |
|              | 庄内   | ○           |             |             |             |
|              | 他地域  |             |             |             |             |

《地域経営系 政策コース》

|                               |   |        |    |
|-------------------------------|---|--------|----|
| 教員氏名                          | 齊藤 徹史   | 最大受入人数 | 8名 |
| テーマ（予定）                       | 法律学における基本判例と論点の学習   |        |    |
| この専門演習の<br>ねらい・到達目標           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・法律学の基本的思考に馴れ、法的な意味でのバランス感覚を身につける。</li> <li>・各種資格試験などの法律科目に対応する基礎力を習得する。</li> <li>・社会に出ても役立つような文章を書く力を養成する。</li> <li>・現代社会の課題を探り、その原因と解決方法を考える習慣をつける。</li> </ul>                   |        |    |
| この専門演習の<br>運営方法               | <p>現時点では、以下のような運営方法を考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミでは法律学を学ぶうえでの基本的な判例を各回で取り上げる。決められた担当者は事前に判例を読み、その要旨と論点を整理してゼミで発表する。</li> <li>・担当者以外の参加者は該当判例を事前に読み、議論に参加する。</li> <li>・ゼミでは活発な議論が期待される。</li> </ul> |        |    |
| 選考方法                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修を希望する人は教務学生課に文書を提出する前に、事前に面談を受けること。面談を受けずに提出した場合には履修を認めない。</li> <li>・受入人数を超えた場合は選考を行う。選考では作文の提出を求める（後日掲示）。</li> <li>・上記作文の内容、成績などを総合的に評価して決定する。</li> </ul>                      |        |    |
| 成績評価の<br>方法と基準                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミでの発表内容と議論への参加状況、課題の提出状況、ゼミ運営への貢献度などを総合的に判断して評価する。</li> </ul>  |        |    |
| 関連科目                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・政策コースで履修可能な法律科目</li> </ul>  |        |    |
| その他<br>(大学院との関係や<br>履修上の注意点等) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教員が提示した行事やプログラムなどには、原則として受講者に参加義務があることを了承してから申し込んでほしい。</li> <li>・グループ学習や学外での発表の機会などを多く設ける可能性がある。</li> </ul>   |        |    |

| 関する学習<br>地域に | 地域区分 | 学びの<br>基本学習 | 地域の<br>背景学習 | 地域課題<br>の認識 | 地域課題<br>の解決 |
|--------------|------|-------------|-------------|-------------|-------------|
|              | 庄内   | ○           | ○           | ○           |             |
|              | 他地域  |             | ○           | ○           |             |

《地域経営系 政策コース》

|                           |   |        |    |
|---------------------------|---|--------|----|
| 教員氏名                      | 小野 英一   | 最大受入人数 | 8名 |
| テーマ（予定）                   | 政治学・行政学・地方自治論・公共経営論・公益学<br>（卒論テーマについては、政治学・行政学・地方自治論・公共経営論・公益学の範囲内で自由）  |        |    |
| この専門演習のねらい・到達目標           | テーマについての理解を深め、諸問題について認識し、自分なりの意見を持つことができるようになること。   |        |    |
| この専門演習の運営方法               | <p>【3年次】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○稲継裕昭『自治体ガバナンス』（放送大学教育振興会、2013年）を輪読する</li> <li>○夏休み明けまでに卒論テーマを決定し、卒業論文研究を進めていく</li> </ul> <p>【4年次】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「卒論中間報告」を繰り返しながら卒業論文作成を進めていく</li> </ul> <p>【3・4年次共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新聞記事を用いたグループディスカッションを行う</li> <li>○選挙時の投票啓発・公開討論会、議員との意見交換会などに積極的に参加し、実践・体験を通して学ぶ</li> <li>○公務員試験過去問を題材とした論文作成・集団討論トレーニング</li> </ul> |        |    |
| 選考方法                      | 希望者が定員よりも多い場合は面接および履修状況により選考を行う。  |        |    |
| 成績評価の方法と基準                | 授業中の発表、ゼミ活動、卒業論文（3年次は中間報告）を総合的に評価。  |        |    |
| 関連科目                      | 「政治学」「行政学」「地方自治論」「公共経営論」「政策事例研究」「現代公益論」<br>その他政策系の科目  |        |    |
| その他<br>（大学院との関係や履修上の注意点等） | 自主性を重んじるため、「受け身」ではなく自ら積極的に勉強、研究、行動する学生を歓迎する。  |        |    |

| 関する学習<br>地域に | 地域区分 | 学びの<br>基本学習 | 地域の<br>背景学習 | 地域課題<br>の認識 | 地域課題<br>の解決 |
|--------------|------|-------------|-------------|-------------|-------------|
|              | 庄内   | ○           | ○           | ○           | ○           |
|              | 他地域  |             | ○           | ○           | ○           |

《地域経営系 地域福祉コース》

|                               |  |        |    |
|-------------------------------|--|--------|----|
| 教員氏名                          | 澤邊 みさ子   | 最大受入人数 | 8名 |
| テーマ（予定）                       | 社会福祉の現状及び現行制度における問題について考察する。   |        |    |
| この専門演習の<br>ねらい・到達目標           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉の制度と現状を理解する。</li> <li>・社会福祉の課題の発見し、解決を目指すための手法を身につける。</li> </ul>   |        |    |
| この専門演習の<br>運営方法               | <p>以下のような内容で進めていきます：</p> <p><b>【3年次】</b></p> <p>① 社会福祉の基本的な文献・現状を知る文献を全員で読み進める（担当を決めて発表、それをもとに討論を行う）。</p> <p>② 新聞等を活用し、社会福祉の現状について考える。</p> <p>③ ①・②と平行して、ゼミ生合同で（場合によってはグループに分かれて）調査研究を行う（テーマは、ゼミ生の関心事に沿って決定する）。</p> <p>④ 秋学期後半より卒業論文のテーマを決め、論文作成の計画を立て、調査研究を開始する。</p> <p><b>【4年次】</b></p> <p>中間発表（3～4回を予定）、個別指導などを通じて卒業論文を完成させる。</p>   |        |    |
| 選考方法                          | <p>入ゼミ希望者が最大受入人数よりも多い場合は、面接によって選考を行う予定。</p> <p>なお、希望調査票の「希望理由」の欄に、福祉に関することで、現在、どのような問題に関心があるか、その理由は何かについて、必ず書いてください。</p>   |        |    |
| 成績評価の<br>方法と基準                | <p>3年次は出席状況、参加状況をもとに評価を行う。</p> <p>4年次は卒業論文に、参加状況などを加味して評価を行う。</p>  |        |    |
| 関連科目                          | <p>「社会福祉学 a・b」「社会保障論Ⅰ・Ⅱ」「障害者福祉論」「地域福祉論 a」「公的扶助論」を履修していることが望ましい。</p> <p>その他の関連科目として、「高齢者福祉論」「児童福祉論」「地域福祉論 b」など。</p>   |        |    |
| その他<br>(大学院との関係や<br>履修上の注意点等) | <p>担当者の専門は障害者福祉分野と低所得者支援の分野ですが、受講生の関心がそれ以外の福祉分野（例えば、高齢者や児童、地域福祉など）のテーマであっても構いません。受講生の興味・関心によって分野を特定する可能性もありますが、大事なのは、調べ、考え、意見を交換しながら、社会福祉についての理解を深め、「私が望む福祉」「よりよい福祉」とは何か、その実現のためにはどうしたらよいかを追求していくことです。地域福祉コースの学生以外でも、社会福祉の問題に関心がある人なら歓迎します。ゼミ活動への積極的な参加を期待します。</p> <p>入ゼミを希望する人は事前に相談してください(面談の日程調整はできるだけメール (sawabe@koeki-u.ac.jp) でお願います)。研究室はA-4、オフィスアワーは月曜日 3時限（オフィスアワー以外の時間も対応可）です。</p> |        |    |

| 関する学習<br>地域に | 地域区分 | 学びの<br>基本学習 | 地域の<br>背景学習 | 地域課題<br>の認識 | 地域課題<br>の解決 |
|--------------|------|-------------|-------------|-------------|-------------|
|              | 庄内   | ○           | ○           | ○           | ○           |
|              | 他地域  |             | ○           | ○           |             |

《地域経営系 地域福祉コース》

|                           |  |        |    |
|---------------------------|--|--------|----|
| 教員氏名                      | 武田 真理子   | 最大受入人数 | 8名 |
| テーマ（予定）                   | <p>誰もが安心して暮らせる福祉まちづくりの研究</p> <p>現在、私たちは、人口構造の変化、働き方や家族のあり方の変容など、大きな社会構造の変化の中に生きている。私たちの生活を支え合う社会福祉・社会保障のしくみも、中央集権的な福祉国家型から、個々の生活に寄り添った地域福祉型への転換を迫られている。私たち自身が生涯、安心して暮らせる地域社会を形成して行くためには、行政、専門職者や特定の「当事者」だけでなく、住民が一体となって福祉まちづくりに取り組むことが求められており、本専門演習ではその方法について研究することを目的とする。</p> <p>2017年度は、2008年度～2016年度の研究活動実績を踏まえ、「住民主体の災害時要援護者支援のあり方に関する研究プロジェクト」とおして、上記課題について考える。</p> |        |    |
| この専門演習のねらい・到達目標           | <p>福祉まちづくりが求められる社会的な背景とその推進方法について、庄内地域、東日本大震災被災地域等をフィールドに主体的に学ぶ。</p> <p>研究成果をもとに、地域住民を対象とした福祉まちづくり推進のためのプログラムを開発し、実際に地域でワークショップ等を実践し、その評価を行うことを3年次の目標とする。</p>  |        |    |
| この専門演習の運営方法               | <p>3年次は全員が「住民主体の災害時要援護者支援のあり方に関する研究プロジェクト」のメンバーとなり、文献調査、被災地訪問調査、その他フィールドワーク、ワークショップ開催等の手法により共同研究を進める。1年間の具体的な達成目標、計画、活動の進め方についてはゼミ員同士で話し合いを重ね、決めて行く。</p> <p>4年次は個別指導、報告会などをおして、卒業論文を完成させる。2月には卒業論文発表会を開催し、学内外の関係者への研究成果の発表を行う。</p>   |        |    |
| 選考方法                      | <p>第一次希望書提出後、希望人数が定員を超える場合は、全希望者を対象に個別面談を行う。（面談日時については後日指定・連絡する。）</p>  |        |    |
| 成績評価の方法と基準                | <p>3年次はプロジェクト研究に対する貢献、輪読・研究発表の内容等に基づいて評価を行う。4年次は卒業論文をもとに評価を行う。</p>   |        |    |
| 関連科目                      | <p>社会福祉だけでなく、公益学、地域づくり・まちづくりに関する科目全般。</p>  |        |    |
| その他<br>(大学院との関係や履修上の注意点等) | <p>ゼミはできるだけ学生主体で運営をし、ゼミ生一人ひとりにとっても意味のある学習活動、社会活動に取り組みたいと考えています。ゼミ生だけでなく、本学大学院生、学外の関係機関や地域住民の方々と一緒に学び合うこともあります。</p> <p>尚、希望者はゼミ見学への参加をお願いします。</p>   |        |    |

|              |      |             |             |             |             |
|--------------|------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 関する学習<br>地域に | 地域区分 | 学びの<br>基本学習 | 地域の<br>背景学習 | 地域課題<br>の認識 | 地域課題<br>の解決 |
|              | 庄内   | ○           |             |             |             |
|              | 他地域  |             |             |             |             |

《地域経営系 地域福祉コース》

|                       |  |        |    |
|-----------------------|--|--------|----|
| 教員氏名                  | 竹原 幸太  | 最大受入人数 | 8名 |
| テーマ（予定）               | <p>子ども・青少年問題を読み解く</p> <p>日本子どもを守る会編『子ども白書』（毎年発行）は、いのちと健康、医療、家庭、福祉、司法、学校、地域、文化、メディア、環境の10領域から子どもの問題を総合的に考察している。本演習では、『子ども白書』を手がかりに、各自関心のある領域から、子どもが成長発達していく上での課題とその対応を研究する。</p>   |        |    |
| この専門演習のねらい・到達目標       | <p>一般的に学問は、当該学問の歴史、理論・思想、研究方法、実践動向、国際動向（比較研究）等が体系化され構成されている。したがって、本演習でも設定した研究テーマをいかなる角度から研究するのかを明確化し、先行研究を分析した上で、オリジナルのアイデアを創出することを到達目標とする。</p>  |        |    |
| この専門演習の運営方法           | <p>3年前期－日本子どもを守る会編『子ども白書2016』（本の泉社）から関心のある論文を各回学生に報告してもらおう。その上で、自分の研究テーマを設定する。</p> <p>3年後期－各自設定した研究テーマの基礎資料やフィールドワークで掴んだ情報を検討し、各回学生に報告してもらい卒論の目次（骨格）を作成する。</p> <p>4年前期・後期－3年次の研究作業を整理し、形式を整えて文章化したものを各回学生に報告してもらおう。</p> <p>※ゼミ参加者の希望があればフィールドワーク調査や英語文献の輪読も検討する。</p> |        |    |
| 選考方法                  | <p>火5のゼミ見学後、学びの意識と教員の専門のミスマッチを防止するため、個別面談を実施する（takehara@koeki-u.ac.jpに連絡の上、個別面談の予約をとること）。担当教員の専門分野や書いた本については、大学HPや図書館で確認しておくこと（個別面談までに学びたいテーマの質問を持っていくことが好ましい）。人数が多い場合は、教育指導上、専門分野に近い者を優先する。</p>   |        |    |
| 成績評価の方法と基準            | <p>毎回の報告・質疑の態度を総合的に評価する。具体的には、報告の質（単なる感想文ではなく、先行研究と自分の意見の区分を行った上で報告出来ているか等）、報告者の報告内容を真摯に傾聴し、的確な質問を投げかけられているか等を評価基準とする（他の担当科目と同様、本演習では最低限の発話力と対話力が求められるので、事前に担当科目で授業イメージをもっておくこと）。</p>  |        |    |
| 関連科目                  | <p>担当科目－児童福祉論、司法福祉論、哲学、倫理学、相談援助の理論と方法IV<br/>その他－教育学、法学（主に刑事法領域）、社会学（主に犯罪社会学及び社会病理学領域）、心理学（主に道徳性心理学領域）、生涯学習論（主に社会教育領域）</p>  |        |    |
| その他（大学院との関係や履修上の注意点等） | <p>テーマは子ども・青少年であるが、子どもが苦手な者、子どもを支援する大人側に<br/>関心がある者や人間や社会の根源等の哲学的関心をもつ者も歓迎する。</p>  |        |    |

| 関する学習<br>地域に | 地域区分 | 学びの<br>基本学習 | 地域の<br>背景学習 | 地域課題<br>の認識 | 地域課題<br>の解決 |
|--------------|------|-------------|-------------|-------------|-------------|
|              | 庄内   |             |             | ○           |             |
|              | 他地域  |             |             | ○           |             |

《地域経営系 地域福祉コース》

|                           |   |        |    |
|---------------------------|---|--------|----|
| 教員氏名                      | 小関 久恵   | 最大受入人数 | 8名 |
| テーマ（予定）                   | <p><b>社会的つながりに関する考察</b></p> <p>現在の日本では社会関係の希薄化が指摘されている。子育ての孤立化、高齢者の孤独死等に代表される問題も社会関係の断絶がもたらすとされている。他方、携帯電話を手放せない等の関係性への強迫的な意識、他者とのつながりに依存する実態もある。本演習では、社会的なつながりや、その不調和がもたらす問題について理解を深める中で、人間は社会関係に何を求めているのか、どのような関係性を必要としているのか理解する。また、多様な人間が社会で連帯して生きることについて考察していく。</p>             |        |    |
| この専門演習のねらい・到達目標           | <ul style="list-style-type: none"> <li>人間の欲求や権利としての社会関係（他者とのつながり）について理解し自分の言葉で説明できる</li> <li>社会関係の不調和がもたらす問題について具体例を挙げて説明できる</li> <li>各自の関心に沿って調べ、考え、書き、発表する力を養う</li> <li>演習テーマや個人テーマに関して他者（ゼミメンバー・教員）と対話することで、幅広い視点から理解を深め、日常生活における身近な問題を含めた社会関係における問題に気づき・解決策を思考する力を養う</li> </ul> |        |    |
| この専門演習の運営方法               | <p>3年次</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>演習テーマに関連する文献の輪読を行い、ゼミメンバーや教員との対話を通して理解を深める。卒業論文執筆に向けて関心を絞り込む。</li> </ul> <p>4年次</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各自設定したテーマについて卒業論文を執筆する。定期的に学習した内容を授業内で発表し、ゼミメンバーや教員との対話を通してさらに理解を深める（基本的には個別指導）。</li> </ul>            |        |    |
| 選考方法                      | <p>希望者を対象に面談をおこなう。</p> <p>※関心が演習テーマ（予定）と合致しているか等</p>  |        |    |
| 成績評価の方法と基準                | <p>3年次は授業への参加や輪読・発表などにおける貢献状況、内容の理解度等をもとに評価をおこなう。4年次は卒業論文をもとに評価をおこなう。</p>   |        |    |
| 関連科目                      | <p>社会福祉関連科目全般。公益学に関する科目。</p>  |        |    |
| その他<br>(大学院との関係や履修上の注意点等) |   |        |    |

|              |      |             |             |             |             |
|--------------|------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 関する学習<br>地域に | 地域区分 | 学びの<br>基本学習 | 地域の<br>背景学習 | 地域課題<br>の認識 | 地域課題<br>の解決 |
|              | 庄内   | ○           |             |             |             |
|              | 他地域  |             |             |             |             |

《交流文化系 国際教養コース》

|                               |  |        |    |
|-------------------------------|--|--------|----|
| 教員氏名                          | 呉 衛峰   | 最大受入人数 | 4名 |
| テーマ（予定）                       | <p>「日本の近現代小説を読む」：<br/>夏目漱石、谷崎潤一郎、川端康成、太宰治、吉本ばなな、村上春樹など日本の近現代を代表する小説家たちの作品から代表的なものを選んで読む。</p>   |        |    |
| この専門演習の<br>ねらい・到達目標           | <p>① 文学作品の鑑賞にとどまらず、初歩的な文学研究の方法を身につける。<br/>② 小説の審美性および社会性を分析できるようになる。<br/>③ 比較文学比較文化の視点から日本の近現代小説の発展の道程をたどる。<br/>④ ゼミ生はそれぞれ自分の好きな小説についてレポートをまとめる。</p> |        |    |
| この専門演習の<br>運営方法               | <p>① 基礎的な文学理論の知識で、小説の面白さの仕組みを解明する。<br/>② 作品の時代性を調べ、小説が社会に伝えるメッセージを読み解く。また、映画化された作品と原作とを比べて、文字と映像による表現の相違を考える。<br/>③ 同時代の外国文学との相互影響を探る。</p>           |        |    |
| 選考方法                          | <p>面談を通じて選考を行う。面談の時間はメールで予約してください。<br/>wu@koeki-u.ac.jp</p>  |        |    |
| 成績評価の<br>方法と基準                | <p>ゼミにおける参加度（積極性・貢献度・課題の完成度）は6割。<br/>期末レポートは4割。</p>  |        |    |
| 関連科目                          | なし   |        |    |
| その他<br>（大学院との関係や<br>履修上の注意点等） | なし   |        |    |



|              |      |             |             |             |             |
|--------------|------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 関する学習<br>地域に | 地域区分 | 学びの<br>基本学習 | 地域の背<br>景学習 | 地域課題<br>の認識 | 地域課題<br>の解決 |
|              | 庄内   | ○           |             |             |             |
|              | 他地域  |             |             |             |             |

《交流文化系 国際教養コース》

|                               |  |        |    |
|-------------------------------|--|--------|----|
| 教員氏名                          | 松田 憲   | 最大受入人数 | 4名 |
| テーマ（予定）                       | 異文化コミュニケーション   |        |    |
| この専門演習の<br>ねらい・到達目標           | 本演習では、英語と日本語の文献を読み、論理的で説得力のある表現方法の習得をめざします。  |        |    |
| この専門演習の<br>運営方法               | <p>上記テーマに関連した文献を、読み、調べ、書き、発表し、評価するという流れの中で、自分の関心がある研究テーマを絞り、論文に仕上げていくことを目標とします。</p> <p>3年次後期に、各自卒論の題名、アウトライン、序論、本論の一部を完成させ、就活に集中できる環境を作ります。</p>  |        |    |
| 選考方法                          | <p>① ゼミ希望者は、教務学生課に「<u>専門演習選択 志望理由書</u>」を提出する前に必ず<u>担当教員を訪ね</u>、志望動機やテーマなどを話し合うこと（火曜3限のオフィスアワー以外でも、相談していただければ面談日を調整します）。</p> <p>② 志望理由書の<u>希望理由の欄</u>に、「この専門演習を選んだ理由」と「この専門演習で深めていきたい自分のテーマ」の2点について、できるだけ詳しく書いてください。第一次希望の提出締め切りは12月2日です。</p> <p>3年次の4月以降に外国語科目Ⅰ～Ⅸの未修得科目が無いことが望ましい。</p> |        |    |
| 成績評価の<br>方法と基準                | 参加状況、発言や質問による貢献度、発表、レポートなどを総合的に評価  |        |    |
| 関連科目                          | 短期語学留学、実践外国語、アメリカ事情、Advanced English Communication、Intensive ReadingⅠ・Ⅱ  |        |    |
| その他<br>(大学院との関係や履<br>修上の注意点等) | 与えられた課題をこなすのではなく、自らテーマを見つけて学ぶなど、受講者の自律性を尊重したい。やる気のある人を歓迎します。質問のある人は気軽に研究室に来てください。“Stay hungry. Stay active.”   |        |    |

|              |      |             |             |             |             |
|--------------|------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 関する学習<br>地域に | 地域区分 | 学びの<br>基本学習 | 地域の背<br>景学習 | 地域課題<br>の認識 | 地域課題<br>の解決 |
|              | 庄内   | ○           |             |             |             |
|              | 他地域  |             |             |             |             |

《交流文化系 国際教養コース》

|                     |  |        |    |
|---------------------|--|--------|----|
| 教員氏名                | 菅井 マリー   | 最大受入人数 | 4名 |
| テーマ (予定)            | A global comparative cross-culture seminar class that studies the social norms and cultural constructs set in place within an individual country that govern the behavioral trends of its people. Differences in educational and public health standards, norms and procedures will be studied, discussed and understood within a culture framework that embodies a sociolinguistic and anthropological perspective.   |        |    |
| この専門演習の<br>ねらい・到達目標 | Students will learn how to explore diverse areas of research, and personal interest, within culture domestically and globally. They will learn how to compose an academic thesis and annotated bibliography in English. Students will learn to discuss and explore global culture and social infrastructure in depth and in English. Upon completion of the course students will be able to discuss social trends from a global viewpoint and develop solid arguments for their own personal opinions, beliefs and values. |        |    |
| この専門演習の<br>運営方法     | Guided tuition in how to research for related topics in English. How to write a thesis paper in English using APA format. How to create and develop an annotated bibliography. Weekly discussion and online work.  |        |    |
| 選考方法                | A short written explanation of about 500 words, why this course is interesting and useful for you. A statement of purpose.   |        |    |
| 成績評価の<br>方法と基準      | Grading is based on discussion, regular presentation, participation (60%) and final thesis (40%).  |        |    |
| 関連科目                | Social studies. Comparative culture. Public Health care. Global events. English.   |        |    |
| その他                 | Enthusiasm.  |        |    |

| 関する学習<br>地域に | 地域区分 | 学びの<br>基本学習 | 地域の<br>背景学習 | 地域課題<br>の認識 | 地域課題<br>の解決 |
|--------------|------|-------------|-------------|-------------|-------------|
|              | 庄内   | ○           |             |             |             |
|              | 他地域  |             | ○           |             |             |

《交流文化系 国際教養コース》

|                               |   |        |    |
|-------------------------------|---|--------|----|
| 教員氏名                          | 狩野 晃一   | 最大受入人数 | 4名 |
| テーマ（予定）                       | 英語に関する問題を扱う。英語学一般、とりわけ英語の歴史について、あるいは英語の変種（方言など）について、音声、語彙、文法などの側面からそれらの特徴を捉え研究する。 |        |    |
| この専門演習の<br>ねらい・到達目標           | 基本的な英語史の知識を習得し、言語変化を内面的な発達と外面的な影響の点から観察する。その過程で英語という言語がもつ問題点を発見し、メカニズムの解明を目指す。    |        |    |
| この専門演習の<br>運営方法               | 基本的に文献（英語史の概論、それぞれの時代のテキストなど）を読み進め、毎回授業において調査した結果を発表し、議論を通じて理解を深めていく。             |        |    |
| 選考方法                          | 志望理由書の内容を精査し、本演習のテーマに照らし合わせて選考する。   |        |    |
| 成績評価の<br>方法と基準                | 授業での提出物（50%）と期末のレポート（50%）で判断する。   |        |    |
| 関連科目                          | 英語（EAP）<br>西洋文学史、文学   |        |    |
| その他<br>（大学院との関係や<br>履修上の注意点等） |   |        |    |

|              |      |             |             |             |             |
|--------------|------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 関する学習<br>地域に | 地域区分 | 学びの<br>基本学習 | 地域の<br>背景学習 | 地域課題<br>の認識 | 地域課題<br>の解決 |
|              | 庄内   | ○           |             |             |             |
|              | 他地域  |             | ○           | ○           | ○           |

《交流文化系 国際教養コース》

|                               |  |        |    |
|-------------------------------|--|--------|----|
| 教員氏名                          | スルトノフ  | 最大受入人数 | 4名 |
| テーマ（予定）                       | Japan and the World Economy<br>世界経済・日本経済の動向  |        |    |
| この専門演習の<br>ねらい・到達目標           | Learning the basic theory of international economics, economic thinking, analysis techniques and understanding of how the international economy works. The focus will be done on international economic relations of Japan, and the impacts of the global economic changes on the Japanese economy.<br>国際経済学の基礎理論を習得し、経済学の考え方、経済学的な視点から国際経済の仕組みを理解出来ることを学びます。日本国の国際経済関係、日本経済におけるグローバル経済の変化の影響を論じる。 |        |    |
| この専門演習の<br>運営方法               | Basic theories and empirical data will be presented and the students will be taught how to discuss, analyze and summarize them. The seminar will be held in Japanese and English.<br>国際経済に関する基礎知識を身に付けていく。少人数の学生が関心をもつテーマについて一緒に議論し意見交換をすることによって知識を深めます。ゼミを日本語と英語で行う。  |        |    |
| 選考方法                          | Interview (if the number of applicants is more than 4)<br>学生数が4人以上の場合面接で審査します。   |        |    |
| 成績評価の<br>方法と基準                | Discussions 40%, thesis preparation 30% and presentation 30%<br>議論 40%、論文の準備 30%、プレゼンテーション 30%   |        |    |
| 関連科目                          | International Economics, Asian Economy, World Economic Affairs, International Cooperation, International Business<br>国際経済学、アジア経済論、世界の政治経済、国際協力論、国際ビジネス論  |        |    |
| その他<br>(大学院との関係や<br>履修上の注意点等) |  |        |    |

| 関する学習<br>地域に | 地域区分 | 学びの<br>基本学習 | 地域の<br>背景学習 | 地域課題<br>の認識 | 地域課題<br>の解決 |
|--------------|------|-------------|-------------|-------------|-------------|
|              | 庄内   |             | ○           | ○           | ○           |
|              | 他地域  |             |             |             |             |

《交流文化系 観光・まちづくりコース》

|                           |  |        |    |
|---------------------------|--|--------|----|
| 教員氏名                      | 伊藤眞知子  | 最大受入人数 | 4名 |
| テーマ（予定）                   | <p><b>ジェンダー・家族と地域づくり</b></p> <p>地域における生活や家族をめぐる課題（妊娠・出産・子育て、DV等）をジェンダーの社会学の視点から探究し、いつまでも暮らしつづけられる魅力ある地域づくりのための解決策を考えます。</p>  |        |    |
| この専門演習のねらい・到達目標           | <p>読むこと（新聞、書籍、論文）、自分の頭で考えること、対話すること、書くこと（レジュメ、レポート）をしっかりと身につけていくことをねらいとします。それをもとに、社会現象を読み解き、地域課題解決に向けて提言する力、地域づくりを実践する力の獲得をめざします。自らの（卒業論文につながる）テーマ・課題を発見し、学年末レポートを完成させることが、到達目標です。</p> |        |    |
| この専門演習の運営方法               | <p>テーマに関連した書物の輪読、各自のテーマに関する報告、新聞クリッピングおよびフィールドワークを行います。演習の運営は、話し合いながら進めていきます。夏休みに、3、4年合同のゼミ合宿を行う予定です。</p>  |        |    |
| 選考方法                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>希望提出前に必ず相談してください。</li> <li>希望者多数の場合は、面接により選考します。</li> </ul>   |        |    |
| 成績評価の方法と基準                | <p>ゼミへの主体的・積極的な参加（2割）、各自のゼミでの報告（4割）、学年末レポート（4割）4000字程度。</p>  |        |    |
| 関連科目                      | <p>ジェンダー論、情報発信・ファシリテーションの技法Ⅰ・Ⅱ<br/>社会調査論</p>   |        |    |
| その他<br>(大学院との関係や履修上の注意点等) | <ul style="list-style-type: none"> <li>大学院生との合同ゼミを行います。大学院進学希望者を歓迎します。</li> </ul>  |        |    |

| 関する学習<br>地域に | 地域区分 | 学びの<br>基本学習 | 地域の<br>背景学習 | 地域課題<br>の認識 | 地域課題<br>の解決 |
|--------------|------|-------------|-------------|-------------|-------------|
|              | 庄内   | ○           | ○           | ○           | ○           |
|              | 他地域  |             | ○           | ○           | ○           |

《交流文化系 観光・まちづくりコース》

|                           |  |        |    |
|---------------------------|--|--------|----|
| 教員氏名                      | 温井 亨   | 最大受入人数 | 4名 |
| テーマ（予定）                   | 都市や農山漁村、自然風景地を対象に研究、あるいは計画を行います。まちづくり、むらづくり、都市観光、農村観光、民家研究などが含まれます。ただし、都市にせよ農村にせよ、近代的な姿に創りかえるのではなく、歴史的な町並み、風景を保全しながら将来計画を立てるといことが本研究室の基本的な考え方です。   |        |    |
| この専門演習のねらい・到達目標           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史的風景を保全する意味、意義について理解し、人に説明できるようになること。</li> <li>・ 自然美でも芸術でもない、生活・生業の結果として歴史的に形成された暮らしの風景の特徴を理解すること。</li> <li>・ ヨーロッパの都市や田園風景の保全の歴史、日本の町並み保存運動、中心市街の役割、文化的景観等を理解すること。</li> <li>・ 実際に現場に出て、地域の人達と議論し、協働作業を行い、汗を流す実践活動をとおして、机上の理論としてだけでなく、現実の問題に対処できるようになること。</li> </ul>   |        |    |
| この専門演習の運営方法               | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 庄内における中心市街地か農村の調査、あるいは再生の提案 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 温井が前期に行うプロジェクト型応用演習に参加してもらいます。同演習と連動したテーマを専門演習でも扱います。</li> <li>・ 各自、中心市街、あるいは農村を1か所フィールドに選び研究します。その結果は、下記の成績評価にある方法で発表し、評価します。</li> <li>・ 関係する書籍、文献を読む。ビデオを見ます。</li> </ul> </li> <li>● 社説を読む(就活に備えて) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読み書きの基礎力をつけ、社会常識を身につけます。</li> </ul> </li> <li>● インターンシップ2単位を修得してもらいます。</li> <li>● 湊町さかた探検隊、ぶら探酒田に参加します。</li> </ul> |        |    |
| 選択できる学生の所属コース             | 観光・まちづくりコース  |        |    |
| 選考方法                      | 人数が多いときは、面談あるいは簡単な課題制作により選考します。関連科目の受講も配慮します。 事前相談を歓迎します。 <a href="mailto:nukui@koeki-u.ac.jp">nukui@koeki-u.ac.jp</a>   |        |    |
| 成績評価の方法と基準                | A3、1枚に、写真や図を交えてまとめた作品をつくり発表する講評会を行います。成績は、出席と参加活動の様子、講評会での発表、作品により評価します。   |        |    |
| 関連科目                      | ゼミの履修は、観光・まちづくり演習Ⅰの修得を条件とします。基礎演習b（温井クラス）を履修していない人には、自主的な履修を薦めます。  |        |    |
| その他<br>(大学院との関係や履修上の注意点等) | 菊地亮哲非常勤講師が参加する予定です。  |        |    |

| 関する学習<br>地域に | 地域区分 | 学びの<br>基本学習 | 地域の<br>背景学習 | 地域課題<br>の認識 | 地域課題<br>の解決 |
|--------------|------|-------------|-------------|-------------|-------------|
|              | 庄内   | ○           | ○           | ○           | ○           |
|              | 他地域  |             | ○           | ○           | ○           |

《交流文化系 観光・まちづくりコース》

|                           |   |        |    |
|---------------------------|---|--------|----|
| 教員氏名                      | 呉 尚浩  | 最大受入人数 | 4名 |
| テーマ（予定）                   | 「公益社会づくり」のための研究と実践活動：私は、「公益」を「“他者（人々や自然環境）の存在”を尊重し、”他者への思いやり”と”他者とのつながり・調和”を大切にできる心、それにもとづく思考と行動」と捉えています。本演習では、公益社会の実現に向けて、実践活動を伴う研究を行います。  |        |    |
| この専門演習の<br>ねらい・到達目標       | 自然と共生する地域づくりに焦点をあて、「地域住民による自然の循環的利用と保全」や、「地域住民の主体的な発想や行動を核とし、地域資源を持続可能な形で活かす地域づくり」である「内発的地域づくり」、それを支える「利潤追求目的でもなく、単発的な活動でもない、継続して地域づくりの課題に関わろうとする人々、グループ、もしくはネットワークが生み出す力」である「公益的な民の力」について、実践的研究を行います。公益学的な視点から、社会科学と自然科学、学問と実践の橋渡しとなる学際的研究、市民グループ、小中高や他大学・研究機関、行政などと連携し、地域の人々と共に考えます。なお、ゼミ全体としては以上が中心ですが、可能な場合は、参加者の関心に沿ったテーマで、研究や活動をしていただきます。   |        |    |
| この専門演習の<br>運営方法           | ゼミ全体として設けた、いくつかの研究・活動グループに参加する（複数可）とともに、各自の問題意識に合わせて個人研究テーマを深めます。また、公益自由研究（呉：テーマ「いのちを学ぶ－庄内地域の自然と人々に会おう」と連携したゼミ運営を行います（ゼミ活動ポスターをご覧ください）。<br>(1) 「島」グループ（キーワード：地域づくり、海ごみ問題、島の自然と文化、離島、三島く佐渡島・粟島・飛島）交流会、飛島・粟島クリーンアップ、トビシマカンゾウ保全、しまかへ、とびしま未来協議会、沖縄）<br>(2) 「森・川・海づくり」グループ（キーワード：森づくり、海岸林保全活動、森林ボランティア、地域の木を使った家づくりと林業、環境公益・自然保全活動一般、コモンズ、環境社会学）<br>(3) 「農と食」グループ（キーワード：環境創造型農業、生物多様性、自然・有機農法、生物と共生する農業、地産地消、農業・食料問題一般、カブトエビ保全水田、地域循環型社会）  |        |    |
| 選考方法                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・必ず公開ゼミに出席した上で、応募してください（日程は、教務学生課前掲示でお知らせします）。</li> <li>※ 公開ゼミに出席されていない方は、ゼミへの応募をお断りすることがあります。</li> <li>・応募資格は「基礎演習 a（呉尚浩）」「環境社会学」「自然環境の保全と共生」「中山間・離島地域論」「応用プロジェクト型演習（飛島防災）」のいずれかを履修していることが条件となります。</li> <li>・応募多数の場合は、面接によって決定します。事前に、気軽にご相談ください。連絡先：ngo@koeki-u.ac.jp</li> </ul>   |        |    |
| 成績評価の<br>方法と基準            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生はゼミ論文、4年生は卒業論文で評価を行います。なお、日頃のゼミへの参加を最重視します。本演習は、知識や理論を詰め込むための場ではなく、いのちを見つめる感受性を高め、私たちの暮らしのあり方と生き方を見つめ直す智恵を学び合うための場です。既成の価値にとらわれない、新しく広く柔らかい心で参加してください。</li> </ul>  |        |    |
| 関連科目                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中山間・離島地域論、自然環境の保全と共生、環境社会学、情報発信・ファシリテーションの技法 I など</li> </ul>  |        |    |
| その他<br>(大学院との関係や履修上の注意点等) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年、飛島、粟島、佐渡、沖縄、東京などで合宿開催（自由参加、参加費などは公開ゼミで説明）。今までに、豊栄（新潟）、網地島・田代島・田尻（宮城）、神島・答志島・鳥羽（三重）、対馬（長崎）、隠岐（島根）、下関・周防大島（山口）、知床（北海道）、愛知（愛・地球博、佐久島）、松本などで開催。下記 HP も参考 <a href="http://naogoo.cafe.coocan.jp/diary/">http://naogoo.cafe.coocan.jp/diary/</a>（呉ゼミ日記 2016） <a href="http://tobishima.info">http://tobishima.info</a>（とびしま未来協議会） <a href="http://naogoo.cafe.coocan.jp/tobishimafanclub/">http://naogoo.cafe.coocan.jp/tobishimafanclub/</a>（飛島ふあんくらぶ）。大学院進学歓迎します。</li> </ul> |        |    |

| 関する学習<br>地域に | 地域区分 | 学びの<br>基本学習 | 地域の<br>背景学習 | 地域課題<br>の認識 | 地域課題<br>の解決 |
|--------------|------|-------------|-------------|-------------|-------------|
|              | 庄内   | ○           |             |             | ○           |
|              | 他地域  |             |             |             | ○           |

《交流文化系 観光まちづくりコース》

|                               |   |        |    |
|-------------------------------|---|--------|----|
| 教員氏名                          | 渡辺 暁雄   | 最大受入人数 | 4名 |
| テーマ（予定）                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広く「社会現象」を対象とした研究</li> <li>・ 社会学理論を用いた研究</li> <li>・ 社会調査を用いた研究</li> <li>・ 生活学・生活文化論——身近な「暮らし」の研究</li> <li>他</li> </ul>  |        |    |
| この専門演習の<br>ねらい・到達目標           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調べ⇒まとめ⇒発信する，という学術研究に必要な基本工程・行程を身につけ，「社会学的想像力」を持った人間を育成する。</li> <li>・ 卒論のみではなく，専門演習Ⅰの時点でも，ある程度まとまった論文を書くことにより，文章作成に関する自信をつける。</li> <li>・ 自分の研究テーマに関する発表と，それに対するゼミ・メンバーの意見交換により，討論する力を身につける。</li> </ul>  |        |    |
| この専門演習の<br>運営方法               | <p>【3年次】ゼミ決定時～4月：「私にとっての大学・ゼミ」というテーマで作文（3000～4000字）を書いてもらい，4月下旬におこなう「春合宿」（1泊2日）で発表・討論をおこなう。また2月下旬に行う「卒論・ゼミ論合同発表会」にも出席してもらおう（日程は後日）。</p> <p>4～6月：社会学に関する基本的な文献に基づく各自の発表・討論をする。</p> <p>6～7月：各自がゼミ論文執筆のために取り上げる「主題」を決定・作成開始し，8月下旬～9月初旬におこなう「夏合宿」（1泊2日）で，中間報告をする。</p> <p>10～1月：各自論文執筆。授業時間に2～3名ずつ，中間報告する。</p> <p>1月下旬：ゼミ論文（20000字程度）提出，2月：発表会をおこなう。</p> <p>【4年次—専門演習Ⅱ】各自のテーマに基づき，卒論執筆（40000字程度）。これに向けて毎回2～3名ずつ発表する（詳細は後日）。2月：ゼミOB・OGを交えて発表会を行う。</p> |        |    |
| 選考方法                          | <p>希望者が定員を超えた場合のみ，面接により選考。</p> <p>その場合，面接日は追って事務局前での掲示にて連絡する。</p>   |        |    |
| 成績評価の<br>方法と基準                | <p>専門演習Ⅰ…上記「ゼミ論文」，「発表」と 普段のゼミ参加態度で評価を行なう。ゼミへの積極的参加度・貢献度が成績評価の重点項目となる。</p>   |        |    |
| 関連科目                          | <p>「社会学」，「社会調査論」，「余暇と観光の社会学」，「サブカルチャー論」等。</p>   |        |    |
| その他<br>(大学院との関係や<br>履修上の注意点等) | <p>上記「関連科目」は，現時点で未履修でも今後履修予定であれば問題ない。</p>   |        |    |



| 関する学習<br>地域に | 地域区分 | 学びの<br>基本学習 | 地域の<br>背景学習 | 地域課題<br>の認識 | 地域課題<br>の解決 |
|--------------|------|-------------|-------------|-------------|-------------|
|              | 庄内   | ○           | ○           | ○           |             |
|              | 他地域  |             | ○           | ○           |             |

《交流文化系 観光まちづくりコース》

|                           |   |        |    |
|---------------------------|---|--------|----|
| 教員氏名                      | 松山 薫  | 最大受入人数 | 4名 |
| テーマ（予定）                   | <p>「地理的事象の把握・分析とその表現」<br/>この演習の柱は、</p> <p>①地理的事象（自然・人文を含めた地域環境）と、人々の生活や産業活動とのかかわりについてテーマを絞って調査・分析する。</p> <p>②その内容を、文字情報だけでなく、図表や地図作成によって適切に伝達する技術を学ぶ。</p> <p>の2点である。①のテーマについては、今年度は砂丘地農業（メロン、大根、ビニール水田など）、鶴岡市の善寶寺、測量遺跡などの見学を実施ないし計画している。担当者の学問的関心は、一般的には忘れられかけられているけれども実は現在と深いつながりがあるような、近過去由来の研究対象（たとえば戦争遺跡、産業・交通遺跡、伝統的建造物と景観形成、戦前の満洲移民関係など）が中心だが、それとはかかわりがなくても上の①に該当するテーマならよしとする。②については、3次元空間の中に存在する地理的事象を文字情報だけで表すことには無理があるので、さまざまな視覚的な情報の扱い方を学ぶ。とくに地図は地理学では大変重要なツールなので、地形図などの既存の地図の種類、入手方法、読図、GIS（地理情報システム）の基礎などをともに学ぶ。</p> |        |    |
| この専門演習のねらい・到達目標           | 上記テーマの①および②が、満足しうる水準の卒業論文として結実すること。   |        |    |
| この専門演習の運営方法               | 文献（欧文含む）輪読、地域統計の分析および主題図の作成、巡検（現地見学および実習）、発表  |        |    |
| 選考方法                      | 面接  |        |    |
| 成績評価の方法と基準                | 出席、発表、レポート等   |        |    |
| 関連科目                      | 人文地理学 a, 自然地理学 a, 自然地理学 b, 世界地誌   |        |    |
| その他<br>(大学院との関係や履修上の注意点等) | <p>金曜午後に学外でフィールドワークを行うことが多いので、その時間帯は空けておくこと。テーマの基盤となっている地理学は、伝統的にフィールドワークを得意とする学問であり、ある程度の積極性や好奇心の強さは不可欠である。また、どんな学問分野にも言えることだが、地道で忍耐の要る既存学問の知識体系の習得なくして、オリジナリティーのある研究は遂行し得ないことを理解していること。あわせて、上記の「関連科目」を全て卒業までに履修することを求める。</p>  |        |    |

| 関する地域に<br>学習 | 地域区分 | 学びの基本<br>学習 | 地域の背景<br>学習 | 地域課題の<br>認識 | 地域課題の<br>解決 |
|--------------|------|-------------|-------------|-------------|-------------|
|              | 庄内   | ○           | ○           | ○           | ○           |
|              | 他地域  |             | ○           | ○           | ○           |

《情報特別選抜（系外）》

|                               |  |        |    |
|-------------------------------|--|--------|----|
| 教員氏名                          | 広瀬雄二   | 最大受入人数 | 8名 |
| テーマ（予定）                       | <p>人を<br/><b>笑顔にする</b><br/>システムを考える</p> <p>【自由なもの】 【オープンなもの】</p>   |        |    |
| この専門演習の<br>ねらい・到達目標           | <p>計画・調査・立案・設計・実装・実験・検証・論述・表現の力をつける。<br/>「なぜそうなるのか」を理解できるようにする。<br/>自力で調べて解決する力をつける。<br/>卒業論文をしっかりと作成できるようにする。<br/>自分が社会を変える一員であることを自覚する。</p>  |        |    |
| この専門演習の<br>運営方法               | <p>共通テーマの学習を輪講形式で、個人テーマ学習を各自のペースで進め卒業研究につなげる。見学は火曜6限201教室まで。</p>   |        |    |
| 選考方法                          | <p>やる気のある者、楽しむことに貪欲な者優先で迎える。向き不向きなどについて事前に面談を行なうので必ず <a href="mailto:yuuji@koeki-u.ac.jp">yuuji@koeki-u.ac.jp</a> 宛に問い合わせること。月曜4限以降、金曜5限ならB-3研究室に直接来ても面談できる可能性が高い。<br/>選考が必要な場合は簡単な調査報告書の作成力を見る。<br/>志望は所属コース/情報特別選抜選択状態によらない。</p> |        |    |
| 成績評価の<br>方法と基準                | <ul style="list-style-type: none"> <li>各自に与えられた課題の達成度</li> <li>専門演習主催で開催するイベントの運営の貢献度</li> <li>卒業論文または卒論事前研究論文(プチ論)</li> </ul> <p>以上を同比重で評価する。</p>   |        |    |
| 関連科目                          | <p>必須ではないが、情報関連の選択科目を履修しておくことが望ましい。履修していない場合は必要科目をできるだけ早い時期に履修すること。</p>  |        |    |
| その他<br>(大学院との関係や<br>履修上の注意点等) | <p>コンピュータに使われるのではなく、自分がコンピュータを従えるための知識を身に付けよう。<br/>大学院への進学相談は合格した先輩在学中にB-3研究室へ。<br/><a href="http://roy/~yuuji/seminar/">http://roy/~yuuji/seminar/</a> も参照。</p>   |        |    |

|              |      |             |             |             |             |
|--------------|------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 地域に<br>関する学習 | 地域区分 | 学びの基本<br>学習 | 地域の背景<br>学習 | 地域課題の<br>認識 | 地域課題の<br>解決 |
|              | 庄内   | ○           |             |             |             |
|              | 他地域  |             |             |             |             |

《情報特別選抜（系外）》

|                               |  |        |    |
|-------------------------------|--|--------|----|
| 教員氏名                          | 西村まどか  | 最大受入人数 | 8名 |
| テーマ（予定）                       | ものづくりと情報   |        |    |
| この専門演習の<br>ねらい・到達目標           | ものづくりに強い文系学生を育成する  |        |    |
| この専門演習の<br>運営方法               | ものづくりに必要な理論の演習を行う。ものづくりの技能実習は準備時間に含まれることがある。   |        |    |
| 選考方法                          | 1時間程度の面談を実施(要予約)。文科系からの進路変更への意志確認を行うため、具体的な将来像について考えておくこと。   |        |    |
| 成績評価の<br>方法と基準                | 年2回の情報系専門演習による発表会への準備 25%。<br>専門演習Ⅰ終了時に提出する卒業論文準備レポートの評価 25%。<br>毎回の演習の発表準備状況 25%。<br>演習における質疑応答の対応 25%。 |        |    |
| 関連科目                          | 演習担当者の開講する科目   |        |    |
| その他<br>(大学院との関係や<br>履修上の注意点等) | 大学院進学希望者を歓迎する。   |        |    |

|              |      |             |             |             |             |
|--------------|------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 関する学習<br>地域に | 地域区分 | 学びの<br>基本学習 | 地域の<br>背景学習 | 地域課題<br>の認識 | 地域課題<br>の解決 |
|              | 庄内   | ○           |             |             |             |
|              | 他地域  |             |             |             |             |

《リベラルアーツ（系外）》

|                               |   |        |    |
|-------------------------------|---|--------|----|
| 教員氏名                          | 遠山茂樹  | 最大受入人数 | 8名 |
| テーマ（予定）                       | ヨーロッパの歴史と文化   |        |    |
| この専門演習の<br>ねらい・到達目標           | 西洋の歴史と文化に対する理解を深め、幅広い視野を身につけると同時に、柔軟な思考力の涵養につとめる。   |        |    |
| この専門演習の<br>運営方法               | 受講者の発表を中心にすすめていく。発表内容は、上記のテーマに関するものであれば、ジャンルは問わない。食の文化史、ファッションの歴史、音楽史、世界遺産、ギリシア神話などテーマの選択・設定は自由。  |        |    |
| 選考方法                          | 希望調査票ならびに面談<br>(希望者は、希望調査票を提出する前に、研究室E-5を訪ねるか、下記の連絡先にメールを下さい。件名は「ゼミの相談」とし、氏名、事前相談の第1&第2希望日を明記して下さい。なお、面談は昼休みの時間帯に実施します。連絡先は、toyama@koeki-u.ac.jp です。) |        |    |
| 成績評価の<br>方法と基準                | 出席、発表、レポート、議論により評価  |        |    |
| 関連科目                          | 西洋史（ただし、選考とは無関係）  |        |    |
| その他<br>(大学院との関係や<br>履修上の注意点等) |   |        |    |

|              |      |             |             |             |             |
|--------------|------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 関する学習<br>地域に | 地域区分 | 学びの<br>基本学習 | 地域の<br>背景学習 | 地域課題<br>の認識 | 地域課題<br>の解決 |
|              | 庄内   | ○           |             |             |             |
|              | 他地域  |             |             |             |             |

《リベラルアーツ（系外）》

|                           |  |        |    |
|---------------------------|--|--------|----|
| 教員氏名                      | 山本 裕樹  | 最大受入人数 | 8名 |
| テーマ（予定）                   | 天文学、インターネット望遠鏡を利用した天体の解析、天文教育について考えます。<br>インターネット望遠鏡とは、インターネットを通じて遠隔地の望遠鏡を使って天体観測を行うシステムのことで（詳しくは <a href="http://www.kitp.org/">http://www.kitp.org/</a> ）。 |        |    |
| この専門演習のねらい・到達目標           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学的な視点と考え方を身につける</li> <li>・自然科学について正しい知識を身につける</li> <li>・理論や自分が立てた仮説を、実験や観測を行い検証できるようになる</li> </ul>                  |        |    |
| この専門演習の運営方法               | はじめは天文学のテキストを使って輪講を行います。<br>その後、各自で研究テーマを設定し、議論・レポート・発表を通じて研究を深めていきます。   |        |    |
| 選考方法                      | 面接と簡単な数学のテストを行います。必ず面接にくること。<br>まずはメール（ <a href="mailto:yamamoto@koeki-u.ac.jp">yamamoto@koeki-u.ac.jp</a> ）で連絡をください。  |        |    |
| 成績評価の方法と基準                | 出席、レポート、発表、議論により評価します。   |        |    |
| 関連科目                      | 数学 a,b<br>物理学<br>天文学 a,b   |        |    |
| その他<br>(大学院との関係や履修上の注意点等) | テキストでは数式を扱うため、数学が苦手な人は厳しいです。<br>宇宙や天体観測が好きな人を歓迎します。  |        |    |

|              |      |             |             |             |             |
|--------------|------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 関する学習<br>地域に | 地域区分 | 学びの<br>基本学習 | 地域の<br>背景学習 | 地域課題<br>の認識 | 地域課題<br>の解決 |
|              | 庄内   | ○           | ○           |             |             |
|              | 他地域  |             | ○           |             |             |

《リベラルアーツ（系外）》

|                           |   |        |    |
|---------------------------|---|--------|----|
| 教員氏名                      | 白旗 希実子  | 最大受入人数 | 8名 |
| テーマ（予定）                   | <p>“教育”という営みに含まれる“社会”的な面に目を向けたり、“教育と社会”の関係に着目する学問である「教育社会学」について学ぶ。その上で、教育と社会をめぐる問題を社会学的視点から分析する。本ゼミでは、特に、欧米との比較軸を用いながら、学校教育、家庭教育、専門職の教育、生涯学習について取り上げる。あわせて、調査方法論（アンケート調査法、質的調査法など）を身につける。</p>   |        |    |
| この専門演習のねらい・到達目標           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育社会学の文献を読み、教育と社会の関係性について考えることができる。</li> <li>・海外の教育制度を学ぶことで、日本の教育制度を客観的な視点から見直す。</li> <li>・インタビュー手法、アンケート調査法など、様々な社会調査方法について理解し使用することができる。</li> <li>・文献の探し方、論文・著書を読む視点を身につける。</li> </ul>  |        |    |
| この専門演習の運営方法               | <p>&lt;専門演習Ⅰ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問いの立て方、文献の探し方を学ぶ。</li> <li>・インタビューの手法、アンケート調査法に関する文献を輪読し、インタビュー計画またはアンケート調査実施計画を立てる。</li> <li>・文献を読みこみ、その上で、各自が関心のある教育に関する論文・著書を読み、レポートにまとめて発表する。</li> <li>・国内外の文献通読：論文・著書を事前に配布→担当者がレジュメ作成→演習のはじめにB4 1枚程度に概要をまとめたものを発表→内容について全員で討議する。</li> <li>・インタビューの手法に関する文献を輪読し、インタビュー計画を立てる。</li> </ul> <p>&lt;専門演習Ⅱ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的に個別指導。適宜ゼミの中で進捗状況報告を行い、論文作成をすすめる。</li> </ul> |        |    |
| 選考方法                      | <p>希望者は必ず見学をすること。演習希望者は、演習見学後、①本ゼミを選択する理由、②本ゼミを受講するとしたら、やってみたいテーマとその概要を1600字～2000字程度にまとめたうえで、個別面談を受けること（原則、火曜2限のオフィスアワーに実施、希望者はshirahata@koeki-u.ac.jpまで連絡すること）。</p>  |        |    |
| 成績評価の方法と基準                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門演習Ⅰ<br/>議論への参加度（15%）、春・夏・冬の各休暇期間中の課題の達成状況（30%）、演習・ゼミ合宿における個人の発表報告（頻度、内容）（35%）、社会調査方法への理解度（20%）。</li> <li>・専門演習Ⅱ：発表・課題・卒業論文などにより総合的に評価する。</li> </ul>   |        |    |
| 関連科目                      | <p>「教育原理」、「教育学」、「生涯学習概論」、「共生社会論」</p>  |        |    |
| その他<br>(大学院との関係や履修上の注意点等) | <p>関連科目を受講していることが望ましい。「教育」に関心のある方、他者の言葉に耳を傾けることができる方、積極的に議論に参加することができる方を歓迎する。<br/>※大学院進学希望者は面談時に必ず申し出ること。</p>   |        |    |